

少しづつ。関心をもつこと。
Think why we are alive.

朝起きて、水を飲んで、ご飯を食べて、洗濯した衣服を着て、
学校や会社に行き、仲間に会い、家族と過ごし、ベットで寝る、ごくごく当たり前の日常。

私たちは、急な環境の変化がない限り、その日常が当たり前だと勘違いしていることが多いです。
当たり前だと勘違いしても許されているのは何故か、私たちは生かされているということに、
少しづつ関心を持てたことが、今思い返すとこの取り組みを始めるきっかけでした。

少しづつ。出来る増やすこと。
We can do what we can do.

子供のころ、ゴミや大気汚染のニュースをよく耳にしていました。
夏休みの自由研究のテーマは、かつて日本一汚いと言われた
地元千葉県の手賀沼の水質調査でした。
学生時代に東急線の電車の中から見た多摩川には泡が浮かんでいました。

果敢に取り組んだ偉大な功労者はもちろん偉大なのですが、
その活動に共感し私たちが行動してきたからこそ、
住みやすい環境を取り戻してきているのだと、
多摩川をジョギングしながら日ごろ感じています。

私たちが出来ることを増やすことによって、
未来は変わっていくことを私たちは知っています。

少しづつ。感謝し愛すること。
Love nature and thank the blessings of nature.

複雑な社会に身をおき、政治や経済の影響を多分に受けながら、
きれいごとだけではないこともよくわかっているつもりです。
ただ、それでもこの地球上のすべては共生しています。

身近なヒトや動物、モノやコト、身近であればあるほど
その存在をないがしろにしてしまいかがちです。
少なくとも未熟な私はよくやってしまいます。

ほんの小さなことに対してだけでも感謝し愛することを、
私にふと思いつき出させてくれるもの
そんな身近な存在だったりします。

少しづつ。
一緒に始めていくことができたら嬉しいです。

小さなお子様から大人の方まで、
私たちの身近な自然を大切にしていくことが、
絶滅危惧種を救うことや環境を守ることに繋がっているということ、
本イベントがその気づきとなることを望んでおります。

強い気持ちと行動力をもってメッセージを伝え続けている
出品者の方々に敬意を表すとともに
この取り組みが絶滅危惧種保護に繋がることを切に願っております。



「Save The RED LIST」プロジェクト実行委員会

実行委員長 猪野佑一 Yuichi Ino

1976年、千葉県生まれ。
日課は多摩川の自然の中をジョギングすることで、動植物の命の豊かさに毎日囲まれている。沖縄の自然を愛し、しばしば沖縄本島のやんばるを訪れている。害獣や絶滅危惧種への関心も高く、自然や環境とビジネスや経済との共生、サステイナブルな社会実現に自分が貢献することが使命だと感じている。